

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月23日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520063

研究課題名（和文） 帝都東京における神社境内と「公共空間」に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Fundamental Study on the Precincts of a Shinto Shrine and the "Public Space" in Imperial Capital Tokyo

研究代表者

藤田 大誠 (FUJITA HIROMASA)

國學院大學・人間開発学部・准教授

研究者番号：20407175

研究成果の概要（和文）：本研究では、「公共空間」や「公共性」をキーワードとして、神道史と都市史・都市計画史、地域社会史の分野などを接続することで、具体的な史料に基づく新たな「国家神道」研究を試みた。神社境内やその隣接空間を「公共空間」として捉え、新旧（帝都）である東京と京都との比較の観点を導入することによって、寺院とは異なる神社独自の「公共性」の歴史や、神社の造営と環境整備に係わる人的系譜やその相関関係について解明した。

研究成果の概要（英文）：In this study, the new "State Shinto" study based on concrete historical records was tried by connecting the field of the history of Shinto, the history of a city and a city planning institute history, and the history of a community, etc. by making "public space" and "public" into a key term. We solved about the history of "public" original with a Shinto shrine different from a temple, the human genealogy concerning the architecture and environmental maintenance of a Shinto shrine, or its correlation by regarding the precincts of a Shinto shrine and its adjoining space as "public space", and introducing the viewpoint of comparison with Tokyo and Kyoto which are old and new imperial capital.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 1,400,000 | 420,000 | 1,820,000 |
| 2011年度 | 900,000 | 270,000 | 1,170,000 |
| 2012年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,100,000 | 930,000 | 4,030,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：帝都東京、神社境内、公共空間、公共性、公園、京都、寺院境内、神職

1. 研究開始当初の背景

近年の研究動向では、「国家神道」概念の枠組再考や言説分析の観点からの理論的考察が注目される一方、かかる考察の基盤や前提となるべき近代の神社そのもの実態やその変遷について具体的な史料をもとに検討している研究は、近代神道史の分野以外、殆ど見当たらない現状にある（藤田大誠『近代国学の研究』弘文堂、平成19年）。しかしながら現在、かくの如き研究と「国家神道」を

めぐる理論的考察との接点は依然見出せず、停滞状態に陥っているといえよう。他方、具体的な史料の検討に即しつつ、神社を「都市」や「地域社会」という「空間」の中において捉えることで、「国家神道」研究に一石を投じる研究も登場している（青井哲人『植民地神社と帝国日本』吉川弘文館、平成17年、畔上直樹『「村の鎮守」と戦前日本—「国家神道」の地域社会史—』有志舎、平成21年）。

2. 研究の目的

本研究は、「東京奠都」以降の〈帝都〉東京における神社を対象として、神道史・日本宗教史と都市史・都市計画史、地域社会史の分野を架橋することにより、神社の「公共性」の歴史的展開について、具体的な史料をもとに基礎的研究を行うことを目的とする。具体的には、それ自体が「公共空間」とされてきた神社境内（社殿等建築物、「鎮守の森」、神苑）の整備過程、さらには社寺領上地などの結果、神社に隣接する近代の新たな「公共空間」として創出された公園・庭園・緑地、或いは神社祭礼の執行による臨時的「公共空間」をも対象として、江戸期からの推移、寺院との比較、それまでの〈帝都〉であった京都との比較の観点を導入して検討を行った。

3. 研究の方法

(1) 関係史料の調査・収集とその検討

まず、国や東京・京都の公文書、近世・近代の神社関係史料など、原資料の調査・収集とその検討を基盤とした。また、本研究参加者が個別の神社をそれぞれ担当し、「公共空間」としての神社とその隣接空間に関する具体的な事例研究を積み重ねた（但し、史料の残存状況や調査の進捗状況によって担当神社を変更し、研究対象の重点配分を移動することも行った）。そして研究を進めるに当たっては、神社や都市計画行政をめぐる関係人物の考察とその相関を常に意識しつつ行った。

(2) 研究会開催と研究発信

ウェブサイトを立ち上げて研究発信に努め、定期的に開催する「神社と「公共空間」研究会」で相互的に検討・議論して問題意識を共有し、公開シンポジウム開催や研究成果報告書作成によって研究のまとめを行った。

4. 研究成果

まず、研究の基盤となる作業として、国や東京・京都の公文書、近世・近代の神社関係史料など、活字文献並びに原資料の調査・収集とその検討を行った。かかる作業の結果、河村忠伸「神社・公園に関する主要法令一覧（稿）」、北浦康孝「東京都公文書館所蔵神社関係公文書一覧（稿）」、福島幸宏「京都府行政文書神社関係資料一覧（稿）」、柏木亨介「阿蘇郡調渡社堂最寄社堂合併調 熊本県」一覧（稿）」を研究成果報告書に収録した。これらは、神社と「公共空間」研究会での報告・議論を踏まえ、いずれも有益な解題や分析が施されており、基礎的資料として学界に広く寄与する貴重な成果といえる。

また、「国家神道」や神社と「公共空間」に関する先行研究の把握については、本研究参加者が公表した論文で各々の文脈に即し、詳しく整理・検討が行われた。但し、非常に大部に互るため、当初予定していた「研究文

献リスト」という形式にはせず、それに替えて、藤田大誠や遠藤潤、佐藤一伯、齊藤智朗、河村忠伸が多岐に互る先行業績の整理を行った上で、明治神宮や皇居造営、近代天皇像、神苑、公園、神社境内、神仏関係、神社神職、「国家神道」に関する研究史整理に取り組み、その成果の一部を論文で発表した。

また、当初の予定通り、本研究参加者は個別の神社をそれぞれ担当し、「公共空間」としての神社とその隣接空間に関する具体的な事例研究を積み重ねた。

とりわけ、東京奠都以降の〈帝都東京〉における「公共空間」としての神社境内（社殿等建築物、「鎮守の森」、神苑）の整備過程を窺うため、当初から具体的な研究対象として挙げていた〈帝都東京〉における複数の神社の中でも、その国民的造営事業自体を大きな画期と目して本研究における中心課題と位置付けたのが明治神宮であった。明治神宮については、その明治天皇大喪儀や日本大博覧会構想をはじめとする前史、創建構想・運動から、具体的な「内苑」「外苑」の造営過程、そしてその後の展開に至るまでを対象とした。とりわけ、祭祀空間としての「内苑」における「神社風致」（環境）を形成した主要素である神社建築（特に社殿）設計や「鎮守の森」造成、さらには神社に附属する「公共空間」（公園的施設・空間）として新たに創出された「外苑」などの建築・造園を担った技術者集団、さらにはそれらを統括する内務官僚、政治家、実業家らに焦点を当てた。藤田大誠、青井哲人、畔上直樹、菅浩二、藤本頼生、佐藤一伯、今泉宜子ら本研究参加者の大部分が取り組み、また、折に触れて外部研究者の知見も頂戴して詳細かつ総合的な検討が加えられ、口頭発表、学術論文、図書などの具体的な成果物として結実し、非常に充実した成果が得られた。

また、当初リストアップしていた東京の著名神社の境内変遷については、日枝神社は河村忠伸、神田神社は岸川雅範、東京大神宮は藤本頼生によってそれぞれ具体的な考察が行われ、口頭発表や論文に結実させている。

東京招魂社—靖國神社の境内・社域の変遷に関しては、同社を〈帝都東京〉における新たな「名所」であり、慰霊の「公共空間」と位置付けた藤田大誠が、その近代の展開を詳細に検討し、口頭発表や論文で研究成果を公表した。特に、宮城や明治神宮の空間形成を踏まえつつ、靖國神社の「馬場」（後の「外苑」）の空間に焦点を当てて、〈帝都東京〉における新たな「公共空間」としての「外苑」創出の多様な性格について論じ、宮城外苑・明治神宮外苑・靖國神社外苑（神苑）の密接な相互関係（往還的な眼差し、影響関係）を描き出した。なお、別格官幣社の嚆矢であり、靖國神社の先駆としても注目すべき楠木正

成を祀る兵庫県・湊川神社の境内変遷については、吉原大志が詳しく検討を加えた。

ただ今回、多摩地域を代表する大社（武蔵国総社）である大国魂神社は、その資料収集は着々と進めていたものの、明治初年の准勅祭社のことなどが藤田大誠によって多少言及されたほかは、その境内変遷に関する具体的な研究成果にまで漕ぎ着けられなかった。但し、多摩地域に関しては、畔上直樹によって、小野神社など「村の鎮守」の境内変遷に対する具体的検討がなされている。また、畔上は、神社風致論の観点から、明治神宮造営を契機とする本多静六・本郷高德・上原敬二らによる林学系造園学の展開を論じ、彼らが「鎮守の森」における「人工的」な針葉樹林から「自然的」な常緑広葉樹林への転換を主導し、今日の「森厳」なイメージを理論付けた「生態学的神社風致論」が、例えば碑文谷に見られる如く、東京や全国の地域社会における「村の鎮守」の境内や「鎮守の森」へと伝播し、神社風致の構造転換へと繋がるという論点を提出した。

かかる畔上の議論と相互応答しつつ、社殿・境内・都市を連続的な環境構成として捉え、主に神社建築設計の系譜を論じた青井哲人は、明治神宮造営の経験は「伊東忠太体制」から「角南隆体制」への大きな転換点であるという視座のもと、プロフェッサー（東京帝国大学教授）からテクノクラート（技術官僚）への移行、明治神宮創建以降における様式論の後退と複合社殿（「一群一塊」のデザイン）の主題化という点を指摘するとともに、「鎮守の森」や境内全体のプランニングとの整合性を企図した社殿設計方法の深化・展開について、伊東忠太と角南隆の間に位置する大江新太郎の役割や、彼を結節点として角南が組織化し帝国日本に広がった神社造営技術者のネットワーク形成の重要性を、主に『江流会名簿』『江流会誌』という新資料の整理・分析から提起した。

以上の如き、神社境内と「公共空間」、都市計画行政などをめぐる関連人物の履歴や相関関係は、各自の論考で具に検討（一部は図示化）されたが、当初想定していた本研究全体に係わる相関図の作成は、強引に統合して不十分なものを作ることは避け、さらに相互検討を深めるべく、今後の課題とした。

近代の神社経営や国学の担い手である神職・国学者、そして内務官僚や政治家、実業家などの神社観やその具体的な活動、相互交流に関しては、主に藤田大誠、畔上直樹、藤本頼生、昆野伸幸が論じた。また、江戸―東京という近世から近代への変遷については、主に〈渋谷〉を対象として藤田大誠と遠藤潤が神仏関係（社寺の比較）や景観の観点を踏まえて検討し、「社寺参詣」から「観光」への展開過程は、神風講社と浪花講・三都講・

一新講社の関係に注目した森悟朗が考察を加えた。さらに、「東京奠都」以降の新旧〈帝都〉である東京と京都の比較については、新旧皇居に附属する「公共空間」（宮城外苑と京都御苑）や平安神宮などに焦点を当てて主に藤田大誠や吉岡拓が検討したが、その背景となる神社の在り方（環境、由緒）の相違や中央以外における造園関係者の実態なども含め、研究会やシンポジウムなどで外部研究者から多くの示唆を得ることができた。

そして、本研究においてキーワードとしてきた「公共空間」や「公共性」という概念については、出発点で行った共通理解のための仮設的捉え方を前提とするに留まった嫌いがあるが、藤田大誠を中心に組んだ日本宗教学会のパネル発表では〈神社〉の「公共性」と「宗教性」を検討し、また、菅浩二は〈神社〉の「国家」性と「公共」性について、明治神宮を題材にしつつ、ナショナリズムの問題とも絡ませて根本的な問い直しを図った。

以上の如く、本研究は、研究課題名に相応しい基盤的な研究成果の数々を生み出し、概ね所期の研究目的を果たしたといえる。また、本研究期間内において解明すべき点についても、未だ検討すべき部分は多いとはいえ、人的系譜・相関関係を中心にそれぞれかなりの程度踏み込んだ見解を打ち出すことができ、また、それらの見解を踏まえることによって、神社造営や環境整備に係わる斬新な枠組や見通しを提示することができた。ただ、それでもなお、従来近代以降の神社神道を語る場合に必ず持ち出されてきた「国家神道」なる曖昧かつ融通無碍な概念を克服できたとまではいえない。それ故今後は、本研究結果の礎に立って、あくまでも史料に即しつつ、より詳細かつ具体的な事例の考察に努め、一方では「公共空間」や「公共性」などの抽象的概念を再検討し、「国家」「国民」と神社神道との係わりについての歴史理解に資する「地に足の着いた」理論の構築にまで昇華すべく、学際的な共同研究を深め、推進してゆかなければならないと考える。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計38件）

- ① 藤田大誠、神社対宗教問題に関する一考察―神社参拝の公共性と宗教性―、國學院大學研究開発推進センター研究紀要、査読無、第7号、2013、41-66
- ② 藤田大誠、明治神宮外苑造営と体育・スポーツ施設構想―「明治神宮体育大会」研究序説―、國學院大學人間開発学研究、査読有、第4号、2013、57-76
- ③ 菅浩二、戦時経済論と記紀神話解釈の側面―一難波田春夫の国体論について―、國學

- 院大學研究開発推進センター研究紀要、査読無、第7号、2013、1-40
- ④佐藤一伯、明治期イギリス人の神道論に関する一考察—W・G・アストン『神道』について—、國學院大學研究開発推進センター研究紀要、査読無、2013、第7号、117-138
- ⑤藤田大誠、青山葬場殿から明治神宮外苑へ—明治天皇大喪儀の空間的意義—、明治聖徳記念学会紀要、査読無、復刊第49号、2012、96-126
- ⑥藤田大誠、神仏分離後の神社と神官・神職、神道宗教、査読無、第228号、2012、58-97
- ⑦藤田大誠、大阪國學院百三十年史（一）財団法人大阪國學院の創立過程、浪速文叢、査読無、第22号、2012、1-111
- ⑧藤田大誠、皇典講究所・國學院大學における日本法制史の特質、國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要、査読有、第4号、2012、217-243
- ⑨藤田大誠、近代神苑の展開と明治神宮内外苑の造営—「公共空間」としての神社境内—、國學院大學研究開発推進センター研究紀要、査読有、第6号、2012、69-128
- ⑩藤田大誠、近代日本の高等教育機関における「国学」と「神道」、國學院大學人間開発学研究、査読有、第3号、2012、71-95
- ⑪藤田大誠、近代国学と日本法制史、國學院大學紀要、査読有、第50巻、2012、105-132
- ⑫青井哲人、建築進化論の屈折を読み解く—明治神宮から始まる二十世紀の「国民様式」—、東京人、査読無、第319号、2012、70-75
- ⑬青井哲人、「最普通ノ様式」—明治神宮と流造の近代的意義—、國學院大學研究開発推進センター研究紀要、査読有、第6号、2012、129-149
- ⑭畔上直樹、帰一協会と二〇世紀初頭の神社界、渋沢研究、査読有、第24号、2012、3-19
- ⑮畔上直樹、「大東京」形成期近郊農村の変貌と町名改称問題—「明治神宮以後」補遺—、國學院大學研究開発推進センター研究紀要、査読有、第6号、2012、151-176
- ⑯畔上直樹、Local shrines and the creation of 'State Shinto'、RELIGION』、査読有、Vol. 42, No. 1、2012、63-85
- ⑰遠藤潤、近世靈山における神仏関係と組織、神道宗教、査読無、第228号、2012、37-57
- ⑱藤本頼生、地方神職会会報にみられる神宮大麻頒布の諸相、明治聖徳記念学会紀要、査読有、復刊第49号、2012、165-185
- ⑲藤本頼生、無格社整理と神祇院—「国家ノ宗祀」と神社概念—、國學院雑誌、査読有、第113巻第11号、2012、67-86
- ⑳藤本頼生、伊勢神宮参拝と修学旅行の歴史、神道文化、査読無、第24号、2012、56-75
- ㉑佐藤一伯、東日本大震災における岩手県—関市周辺の神社祭礼・支援活動、國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要、第4号、査読有、2012、25-34
- ㉒佐藤一伯、アメリカの神道観に関する一考察—ロバート・O・バーロウ『神道』の紹介—、國學院大學研究開発推進センター研究紀要、査読有、第6号、2012、195-208
- ㉓岸川雅範、神田祭、東京人、査読無、第310号、2012、72-81
- ㉔岸川雅範、江戸の神社祭礼：その形と執行状況」、國學院大學研究開発推進機構紀要、査読有、第4号、2012、1-36
- ㉕岸川雅範、江戸幕府と神田祭—御雇祭について—、國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要、査読有、第4号、2012、61-75
- ㉖河村忠伸、近代神社行政における神社境内の公園的性格、明治聖徳記念学会紀要、査読有、復刊第49号、2012、268-286
- ㉗藤田大誠、慰霊の「公共空間」としての靖國神社、軍事史学、査読有、第47巻第3号、2011、56-74
- ㉘藤田大誠、明治神宮史研究の現在—研究史の回顧と展望—、神園、査読無、第6号、2011、110-130
- ㉙藤田大誠、〔書評論文〕「国家神道」概念の有効性に関する一考察—島藺進著『国家神道と日本人』の書評を通して—、明治聖徳記念学会紀要、査読無、復刊第48号、2011、291-302
- ㊀藤田大誠、神道史からみた近代仏教、近代仏教、査読無、第18号、2011、27-43
- ㊁藤田大誠、大阪府皇典講究分所から財団法人大阪國學院へ、國學院大學校史・学術資産研究、査読有、第3号、2011、41-99
- ㊂畔上直樹、戦前日本社会における現代化と宗教ナショナリズムの形成、日本史研究、査読有、第582号、2011、96-120
- ㊃藤本頼生、東日本大震災と神社・神職、国際宗教研究所ニュースレター、査読無、第71号、2011、3-7
- ㊄藤本頼生、地域社会の変容と神社神道—無縁社会・ファスト風土化する社会のなかで—、神社本庁総合研究所紀要、査読無、第16号、2011、23-85
- ㊅藤本頼生、神職養成と宗教教育—戦後六十五年の歩みからみる現状と課題—、宗教研究、査読有、2011、第85巻第2号、269-292
- ㊆佐藤一伯、GHQの神道観に関する一考察—『日本の宗教』を介して—、明治聖徳記念学会紀要、査読有、復刊第48号、2011、

- ③7 佐藤一伯、明治・大正の招魂社案内記一靖國神社・護國神社の由緒と文芸一、國學院大學研究開発推進センター研究紀要、査読有、第5号、2011、39-57
- ③8 今泉宜子、The Making of Mnemonic Space : Meiji Shrine Memorial Art Gallely 1912-1936、JAPAN REVIEW : JOURNAL OF THE INTERNATIONAL RESEARCH CENTER FOR JAPANESE STUDIES、査読有、NUMBER 23、2011、143-176
- 〔学会発表〕(計27件)
- ① 佐藤一伯「後方支援者としての神社・神職」(國學院大學共存学フォーラム「震災復興と文化・自然・人のつながり—岩手三陸・大槌の取り組みから—」個別報告、平成25年2月17日、於 國學院大學)
- ② 菅浩二「日韓同祖論と神社」(国際フォーラム「東アジアの文化表象とグローバリゼーション」発表、平成25年2月2日、於 韓国・漢陽大学東アジア研究所)
- ③ 菅浩二「On Academic Utility of "State Shinto" Concept: Considering Contemporary Discussions in Japan」(国際研究交流ワークショップ「国学院大学における日本宗教研究の最先端」発表、平成25年1月23日、於 米国・ハーバード大学ライシャワー日本研究所)
- ④ 藤田大誠「近代における国学的教育機関の神職養成と教員養成—皇典講究所・國學院を中心に—」(日本教育史学会第674回例会発表、平成24年12月22日、於 謙堂文庫)
- ⑤ 菅浩二「台湾神社宮司・山口透と寺廟」(神奈川大学非文字資料センター公開研究会「帝国後 海外神社跡地の景観変容」発表、平成24年12月15日、於 神奈川大学)
- ⑥ 畔上直樹「目黒区誕生と碑文谷公園」(目黒区めぐろ歴史資料館・平成24年度秋の企画展記念講演会、平成24年11月10日、於 めぐろ学校サポートセンター)
- ⑦ 青井哲人・畔上直樹・藤田大誠・菅浩二・小林丈広・小川原正道・藤本頼生・今泉宜子「帝都東京における神社境内と「公共空間」—明治神宮造営後の都市環境形成—」(公開学術シンポジウム、平成24年10月20日、於 明治神宮)
- ⑧ 齊藤智朗・藤田大誠・藤本頼生・昆野伸幸・小島伸之「「国家神道」における公共性と宗教性—昭和戦前期を中心に—」(日本宗教学会第71回学術大会パネル発表、平成24年9月8日、於 皇學館大学)
- ⑨ 今泉宜子「Imagined Discipline: The 1940 Meiji Shrine Sports Meet」(英国日本研究協会研究大会発表、平成24年9月6日、於 英国・イーストアングリア大学)

- ⑩ 今泉宜子「Order and Disorder in Meiji Shrine: Festive Events and Practices in 1920」(国際日本文化研究センター第19回海外シンポジウム、平成24年8月23日、於 デンマーク・コペンハーゲン大学)
- ⑪ 遠藤潤・吉岡拓・藤田大誠・谷川穰・中嶋節子・青井哲人「公開研究会 帝都における社寺境内と「公共空間」の整備過程」(第12回神社と「公共空間」研究会、平成24年8月4日、於 京都府立総合資料館)
- ⑫ 畔上直樹「南方熊楠の合祀反対運動における「人民の意志」論の再検討」(日本国際文化学会2012年度第11回全国大会報告、平成24年7月8日、於 青山学院大学)
- ⑬ 水内佑輔・上田裕文・小野良平・畔上直樹・今泉宜子「明治神宮の林苑計画をめぐって—造園学と森林美学の系譜から—」(第10回国際神道文化研究会、平成24年4月28日、於 明治神宮)
- ⑭ 畔上直樹「神社「非宗教」概念と20世紀初頭の日本社会—在地神職層の動向を中心に—」(国際日本文化研究センター共同研究会報告、平成24年4月21日、於 国際日本文化研究センター)
- ⑮ 藤本頼生「震災と神社・神職の近現代—その対応をめぐって—」(第65回神道宗教学会学術大会パネル発表「東日本大震災と神道」発題、平成23年12月4日、於 國學院大學)
- ⑯ 加瀬直弥・太田直之・遠藤潤・藤田大誠・北條勝貴・引野亨輔・藤本頼生「神仏関係史再考—カミを祀る空間の担い手をめぐって—」(第65回神道宗教学会学術大会シンポジウム、平成23年12月3日、於 國學院大學)
- ⑰ 藤田大誠「昭和戦前期の戦死者慰霊に関する一考察—英霊公葬問題を中心に—」(日本思想史学会2011年度大会個別研究発表、平成23年10月30日、於 学習院大学)
- ⑱ 長谷川香・本荘暁子・青井哲人・畔上直樹・藤田大誠・今泉宜子「明治神宮の造営前史と隣接空間」(第9回国際神道文化研究会、平成23年10月22日、於 明治神宮外苑聖徳記念絵画館)
- ⑲ 畔上直樹「戦前日本社会における現代化と宗教ナショナリズムの形成」(2010年度日本史研究会大会近現代史部会共同研究報告、平成23年10月10日、於 京都大学)
- ⑳ 藤田大誠「近代日本の高等教育機関における「国学」と「神道」」(教育史学会第55回大会研究発表、平成23年10月2日、於 京都大学)
- ㉑ 今泉宜子「Between "reak" history and "realistic" painting : The making of Meiji Shrine Memorial Art Gallery 1912-1936」(第13回 European Association for Japanese Studies [ヨーロッパ日本

- 研究協会] 国際会議発表、平成 23 年 8 月 27 日、於 エストニア・タリン大学)
- ⑫藤田大誠「式内社の近現代—伝統的「公共空間」としての古社—」(相模國式内社の會式内社講演会、平成 23 年 6 月 17 日、於 寒川神社)
- ⑬藤田大誠「靖國神社の祭祀と境内整備—近代日本における慰霊の「公共空間」形成—」(第 45 回軍事史学会年次大会研究発表、平成 23 年 6 月 4 日、於 皇學館大学)
- ⑭今泉宜子「明治神宮運動の諸相：渋沢栄一と田沢義鋪を中心に」(第 171 回渋沢研究会例会報告、平成 23 年 4 月 23 日、於 文京学院大学)
- ⑮藤田大誠「近代国学と日本法制史」(法制史学会近畿部会第 415 回例会報告、平成 22 年 12 月 18 日、於 京都大学)
- ⑯青井哲人・畔上直樹・藤田大誠・山口輝臣・今泉宜子「明治神宮造営のめぐる人々—近代神社における環境形成の転換点—」(明治神宮鎮座 90 年記念公開学術シンポジウム、平成 22 年 10 月 23 日、於 明治神宮)
- ⑰大谷栄一・藤田大誠・菊地暁・林淳「問い直される近代仏教」(第 18 回日本近代仏教史研究会研究大会シンポジウム、平成 22 年 5 月 22 日、於 國學院大學)

[図書] (計 9 件)

- ①藤田大誠編集・発行、研究成果報告書 帝都東京における神社境内と「公共空間」に関する基礎的研究、2013、315
- ②國學院大學研究開発推進センター渋谷学研究会・石井研士編著 (藤田大誠、遠藤潤他執筆)、雄山閣、渋谷の神々、2013、342
- ③國學院大學研究開発推進センター編 (藤田大誠、藤本頼生、菅浩二他執筆)、錦正社、招魂と慰霊の系譜—「靖國」の思想を問う—、2013、343
- ④今泉宜子、新潮社、明治神宮—「伝統」を創った大プロジェクト—、2013、351
- ⑤大谷栄一・藤本頼生編著、明石書店、地域社会をつくる宗教、2012、301
- ⑥山中弘編著 (森悟朗他執筆)、世界思想社、宗教とツーリズム—聖なるものの変容と持続—、2012、279
- ⑦國學院大學研究開発推進センター編・古沢広祐責任編集 (菅浩二他執筆)、弘文堂、共存学—文化・社会の多様性—、2012、282
- ⑧由谷裕哉編著 (藤本頼生他執筆)、角川学芸出版、郷土再考—新たな郷土研究を目指して—、2012、284
- ⑨佐藤一伯、国書刊行会、明治聖徳論の研究—明治神宮の神学—、2010、415

[その他]

- ①ホームページ：「帝都東京における神社境内と「公共空間」に関する基礎的研究」

<http://www2.kokugakuin.ac.jp/fudita/>
 ②知識・資料提供、取材、出演等協力：藤田大誠・今泉宜子「神宮外苑」(NHK総合「ブラタモリ」平成 24 年 3 月 29 日放送)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤田 大誠 (FUJITA HIROMASA)
 國學院大學・人間開発学部・准教授
 研究者番号：20407175

(2) 研究分担者

青井 哲人 (AOI AKIHITO)
 明治大学・理工学部・准教授
 研究者番号：20278857
 畔上 直樹 (AZEGAMI NAOKI)
 上越教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
 研究者番号：20315740

(3) 連携研究者

遠藤 潤 (ENDO JUN)
 國學院大學・研究開発推進機構・准教授
 研究者番号：30365514
 菅 浩二 (SUGA KOJI)
 國學院大學・研究開発推進機構・准教授
 研究者番号：30532676
 森 悟朗 (MORI GORO)
 國學院大學・研究開発推進機構・助教
 研究者番号：10445463

(4) 研究協力者

藤本 頼生 (FUJIMOTO YORIO)
 國學院大學・神道文化学部・専任講師
 佐藤 一伯 (SATO KAZUNORI)
 御嶽山御嶽神明社・禰宜
 岸川 雅範 (KISHIKAWA MASANORI)
 神田神社・権禰宜
 今泉 宜子 (IMAIZUMI YOSHIKO)
 明治神宮国際神道文化研究所・主任研究員
 福島 幸宏 (FUKUSHIMA YUKIHIRO)
 京都府立総合資料館・歴史資料課主任
 齊藤 智朗 (SAITO TOMOO)
 國學院大學・研究開発推進機構・准教授
 昆野 伸幸 (KONNO NOBUYUKI)
 神戸大学・大学院国際文化学研究科・准教授
 柏木 亨介 (KASHIWAGI KYOSUKE)
 韓国・蔚山大学校・人文大学日本語日本学科・助教
 北浦 康孝 (KITAURA YASUTAKA)
 早稲田大学・大学院文学研究科博士後期課程
 河村 忠伸 (KAWAMURA TADANOBU)
 神社本庁総合研究所・録事
 吉原 大志 (YOSHIHARA TAISHI)
 日本学術振興会・特別研究員 (P D)
 吉岡 拓 (YOSHIOKA TAKU)
 日本学術振興会・特別研究員 (P D)